

Ⅱ 検討委員会の取組

1 調査・審議の経過

第1回検討委員会（令和2年9月24日）

- 委員委嘱状交付
- 委員長及び副委員長選出
- 検討委員会の基本的事項の確認
- 基礎資料の説明等、意見交換

第2回検討委員会（令和2年11月26日）

- 市内小学校の状況視察（小規模校、適正規模校）
- 意見交換

第3回検討委員会（令和3年2月2日）

- 市内中学校の状況視察（小規模校、適正規模校）
- 意見交換

第4回検討委員会（令和3年7月26日）

- 第1回から第3回までのまとめ
- 意見交換

第5回検討委員会（令和3年11月22日）

- 県内義務教育学校の状況視察
- 意見交換

第6回検討委員会（令和4年2月7日）

- 適正規模に関する基本的な考え方について検討、意見交換

第7回検討委員会（令和4年4月21日）

- 適正配置に関する基本的な考え方について検討、意見交換
- 特に配慮すべき事項について検討、意見交換
- 提言内容について検討、意見交換

2 意見交換の内容等

(1) 適正規模について

<第1回～第3回委員会>

【小学校視察後】

小規模校 (6～11 学級) 視察 (鷹栖小 6 学級)	適正規模校 (12～18 学級) 視察 (砺波東部小 18 学級)
<p>○教師の目が届きやすい。</p> <p>●1つの学年を1人が担当</p> <p>●校務分掌が多い。</p> <p>●競争力の低下</p> <p>●人間関係の固定化が懸念される。</p>	<p>●小規模校に比べると目が届きにくい。</p> <p>○複数の教員で学校行事や授業等について相談できる。</p> <p>○校務分掌を手分けできる。</p> <p>○若手、中堅、ベテランの教員がおり、それぞれの良さを生かせる。</p> <p>○いろんな仲間がいる。人間関係がうまくいかないときクラス編成で考慮できる。</p> <p>●集会等の移動に時間がかかる。</p> <p>○学ぶ環境としては適正と感じた。</p>
<p>○1クラス25人程度がよいのでは。(10数人では少ない、30人以上多い)</p> <p>○特色ある学校づくり等、地域に子供を誘導できるような環境を柔軟につくる必要がある。</p>	

(「○：メリット要素」、「●：デメリット要素」以下同様。)

【中学校視察後】

小規模校 (3～11 学級) 視察 (庄川中 6 学級)	適正規模校 (12～18 学級) 視察 (出町中 18 学級)
<p>●すべての教科の教員の配置ができない。</p> <p>●部活動の種類が限られる。</p> <p>●部活動の顧問の充足ができない。</p> <p>○●小学校からの人間関係が引き継がれる。</p>	<p>○新しい人間関係が生まれる。</p> <p>○中学校でのリスタートがしやすい。</p> <p>○適正な規模なのかと感じた。</p>
<p>○中学校に入ったときに生徒がチェンジできる環境づくりが大切。</p> <p>○学校と地域との連携が必要。</p>	

<第4回委員会>

- ・1学年の学級数は、クラス替えできる2クラス以上がよいと感じた。
- ・小規模校、適正規模校にそれぞれ良さがあり、学校を選択できたらよい。
- ・小学校と中学校では、考え方は、違うのではないか。
- ・防災拠点など地域での学校の役割についても考慮するべきでないか。

<第5回委員会>

【義務教育学校視察後】

- ・9年間を見通した学習カリキュラムを編制できることや小学校段階から教科担任制を導入できるなど中学校課程への移行がスムーズである。
- ・交流する年齢幅が大きくなり、いい影響を与えている。人間関係の固定化は少し解消されるのではないか。市内1校ぐらいあってもよいのではないか。
- ・小規模な義務教育学校であった場合、小学校や中学校における小規模校の課題は、ほとんど解決されない。(人間関係の固定化や学級編製の課題、専科教員の課題、中学校部活動など)
- ・中学生にとって小学生が身近にいる環境で学ぶことが本当によいことなのか。生徒指導上も様々な面で違いがあると思う。

<第6回委員会>

【小学校の望ましい学校規模について】

- ・これまで視察をしてきて、基本的に1学年に複数の学級があるのは大きなくくりとしてよいと感じた。ただし、地域的に過去から小さな学校でやってきていたり、通学距離が長くなると子供の足では通いきれないということもあつたりするので、基本的に複数学級だが、地域的に1学級という学校があつてもよいのではないか。
- ・現在は子供の人数が30～35人という数字となっているが、もう少し少ない方がよいと感じる。お金の面もあると思うが、それを考慮せずに気持ちだけで考えると24～25人として、クラス替えもできるというのがよい。
- ・1学年2学級以上の方が活気があり、学べるものも多いので、2学級以上という意見に賛成。地域の実情を考慮し、学校の配置をそのままにしておく、子供が減っていくことを前提にすれば、いずれは複式学級になってしまうということも頭の中に入れておいて、合併という形も考えられるのではないかと思う。
- ・1学年2～3学級が理想である。単級では、競争力の低下が一番懸念される。最終的な結論は統合ということになってくるだろうと思うが、統合しやすい地域としにくい地域が生まれてくる。出町小学校、砺波東部小学校、砺波北部小学校は住宅団地ができやすく子供が集まりやすい環境にあるが、庄南小学校、庄東小学校、鷹栖小学校、庄川小学校は子供を外から呼びにくい地域である。同じ市内でも格差が生まれるのが課題。
- ・複数学級が良いとは思いますが、1学級の問題はあると思う。単級となる人数であっても、2学級に分けられないのかと考える。文科省が適正規模校というものを出しているが、これはあくまで一つの例であつて、地域によってはこの限りではないということだと思っている。小学校はなるべく学校を残した方がよいと考えており、単級となる人数であっても2学級にできないものか。
- ・砺波市は小学校区が八つ、中学校区が四つあり、これまでうまく運用してきたが、今後も何とか残していきたい。合併や再編の話が出るが、それは非常に大変なことである。砺波型で何とか残していくという形のものを作っていただきたい。自治振興会協議会でも学校再編の話を地域に持って行ったとしても全く決まらないという話をしていたが、形に縛られると大変なことになる。決まった形のものでなくても、複数学級にならなくても、うまくやっていくことができるのではない

か。自分が小学生の時は、1学年20人いなかった。それでも仲が良く、今でも集まっている。このように地域のつながりというものもあるので、それも含めて検討しなければならない。人数が減ってもうまくやれるような形で進めていただきたい。

- ・30人や35人というのは多すぎると思う。コロナ禍の状況からしても、現在の教室のスペースでは半分程度の人数しか入らないのではないかと。したがって、35人の半分を目処にするのがよいのではないかと考える。15～20人を上限として考えていくことが必要である。砺波型としてこのようなことが可能なのであれば、提案したい。
- ・国の基準の35人を適正とするというのは、小学校の場合が多いと感じる。24～25人が良い。15人程度が良いのではないかとこの話があったが、上限を15人とすると16人になった場合に8人の学級が二つできることになるため、上限15人とするのは厳しいのではないかと。このようなことを考えると、小学校は30人以上は多く、砺波市としては二十数人とできるように、最大30人という規模で進めていけば良いと感じる。
- ・これからの時代、多様性を受け入れる時代になってきている。どこの地域とも違う砺波型というものを色濃く出して進めていくのが面白いし、元気な市になると思う。10年先、15年先に砺波型の新しい環境を整えることで、人が集まってくるような市になればよいと思う。
- ・小学校は地域とのつながりが強く、特に砺波の学校は地域に支えていただいております、それを子供たちは肌で感じられる。そのことは、低学年、中学年と成長していく中で、非常に大きく働いていると感じる。複式学級は子供にストレスがかかる部分があり、子供同士の教え合いというメリットはあるものの、やはり避けた方がよい。単級であればぜひ学校を残し、中学校に上がる際にそれぞれ抱えている思いなどをリセットする機会をつくる。小さい世界から、中学校という大きい世界へ行き、新しい出会いや体験をするのが良いのではないかと。小さい頃は地域に見守られる実感を持つのが良い。

【中学校の望ましい学校規模について】

- ・家族に中学1年生がいるが、一番の楽しみは席替えだという。また、クラス替えも非常に楽しみにしているようだ。このようなことから、少なくとも複数の学級があった方がよいと思う。ただし、地理的な面で大人数に遠距離の通学をさせるのは難しいため、それを考慮した上で複数学級を維持する方向がよい。
- ・中学校でも教育環境の問題がある。ある程度学級数がないと、教員が配置されない。
- ・1年間で学級のメンバーをシャッフルするので、人間関係の問題がある場合は距離を置き解決を図ることによって、ストレスを軽減し学習環境を整えることができる。1学年1学級ではこのようなことが全くできない。2学級であっても、最近SNS等の問題もあり、複雑になりつつあるので難しく、3学級から4学級であるのが望ましい。
- ・本市は地域の方が苦勞してこれまで学校をまとめてこられた経緯があり、数字の話だけで片付けられない現実がある。
- ・少ない方がよいのは明らか。今後子供同士の対話をより重視していくことになれば、35人学級で一人1分話すと35分もかかってしまうことを考慮すると、3

5人学級は多すぎる。ただ、学習形態による。体育科の場合は、20人でやるよりも40人でやった方がチームスポーツも実施しやすい。クラスを組み合わせることによって工夫は可能ではある。国の基準の35人学級というのは、30人程度は見て欲しいというメッセージだと思っている。難しいが30人程度がよいのではないか。

- 自分が中学校に通っていたとき、1学年3学級で、1学級は33人であった。今と比較するとSNS等もなく教育の方法も異なっているが、33人より少ない方が教員が生徒一人一人に気を配ることができて良いのではないか。人数は小学校ほど少ない必要はなく、25人程度がちょうど良いと感じる。
- 学校によって、部活動の数が3倍ほど違う。中学生にとって、やりたい部活動があるというのは重要なこと。自分のやりたい部活動ができないということになると、身が入らないということが起こる。再編を考える中で、部活動についても一つのキーワードだと思う。